

令和2年度 ちぐさこども園 自己評価報告書

1. ちぐさこども園の教育目標

- 「意欲」 …… 面白いことや楽しいことを十分に体験を通して、
「〇〇したい」につながるエネルギーを心身ともに培う
- 「感性」 …… 様々な体験を通して、感じる心・表現する喜びを味わい、同時に知的な感覚を磨く
- 「思いやり」 …… 他者と共にする生活や遊びを通して、友だちと過ごす楽しさや難しさを味わいながら、
他者のことを慮る心や態度を培う。

2. 本年度の重点取組み事項 スローガン 『ひとりひとり』

- ① 子どもが主体性を尊重する保育(自律的な生活環境の構成、保育課程見直し、記録の見直し)
- ② 特別支援教育の充実
- ③ コロナ禍をふまえた園内保育の見直しと充実

3. 重点的な取組みへの評価

項目	取組み内容	評価	
① 子どもの主体性を尊重する保育	・ドキュメンテーション作成に取り組み、より子どもの内面に着目した記録の作成・共有を実施。	B+	・子どもをみる視点について、職員一人一人が磨くとともに、写真等を活用して、よりわかりやすく共有し、園として磨きあった。 ・一方、保育課程の見直しは未着手。
② 特別支援教育の充実	・年3回の園内研修を実施。(うち1回は外部講師(作業療法士)を招聘) ・記録の蓄積と共有がしやすいよう、個別支援計画フォーム見直しを実施。	A	・園内研修での話し合いや外部専門家の知見を通して、発達障害や特別支援教育への理解が深まった。
③ コロナ禍をふまえた保育見直し	・園外行事中止等、年間計画の大幅な見直しを実施。 ・行事中止でできた時間を子ども一人一人の興味関心を深める時間になるよう、保育環境を充実。	A	・予測しにくい状況が続く中で、できるだけ迅速な判断と保護者との情報共有ができた。 ・コロナの影響をポジティブに捉えて、子どもの園生活充実につなげることができた。

4. ちぐさこども園運営の総合的な評価(重点事項以外も含む)

評価	理由と次年度への課題
A	・「ひとりひとり」をテーマに掲げ、記録充実(ドキュメンテーション作成)や特別支援教育への理解深化等の具体的な取組みが、子ども一人一人の思いに沿った保育充実につながった。 ・ドキュメンテーションの共有により、保育者間の相互理解も深まった。 ・ICTの更なる活用等による保護者への発信、保育課程見直しは継続課題。